

産婦人科

1. 診療科紹介

産婦人科の仕事の内容には、周産期（分娩など）、生殖医療（体外受精など）、腫瘍学（良性、悪性）、更年期医療、感染症（STD など）などがあり、当院では生殖、周産期医療の一部（体外受精胚移植、NICU 管理）を除いたすべての分野を行っている。全国的な産婦人科医師不足はすでに周知のごとくであるが、京都市内ではまだ充足している状態である。しかし、夜間、休日の診療体制は乏しく、当院は救急指定病院としての重要な役割を担っている。また、50 施設を越える武田病院グループの中では産婦人科の中心的役割を担い、グループ病院である東山武田病院、宮津武田病院、康生会武田病院検診センターの産婦人科、ラクトクリニック、榊辻病院、吉川助産院などの関連施設、地域個人診療所との病診連携を行い、京都市南部での基幹病院となっている。

現在のスタッフは、常勤医師 4 名、初期研修医 1 名（康生会武田病院研修医を含む）、助産師は 9 名が診療にあたっている。年間分娩数は約 200 件、手術室での手術件数は 200 件、内視鏡下手術がそのうち 80 例ほどをしめる。悪性腫瘍に対する広汎術式、リンパ節郭清なども約 15 例行っている。人工妊娠中絶術は行っていない。後期研修の場としては症例数が多く、実地臨床の研修が十分に行え、チーム医療の中心となる医師としての研修を目指している。過去に当院で研修をした医師たちは、すでに各地でチーム医療の中心として、部長、医長となって活躍中である。

生命の危険を伴う患者さんの救命処置や手術を行い、月経困難症などの苦痛で困っている患者さん、赤ちゃんの誕生に手を貸すことができ、その中で共に人間の一生を考える医師を目指したいと願う医師たちを、我々は共に働く精鋭チームの一員として迎えたい。

関連学会、医師会

日本産科婦人科学会、近畿産科婦人科学会、日本生殖医学会、
日本産科婦人科内視鏡学会、日本産婦人科手術学会、
日本周産期学会、京都母性衛生学会、日本癌治療学会 他

2. 施設認定・指導医・専門医

日本産科婦人科学会専門医制度臨床研修指導施設

- | | |
|---------|---|
| 1) 山本嘉昭 | 日本産科婦人科学会専門医および代表指導医
母体保護法指定医師および母体保護法臨床指導医師 |
| 2) 笠原恭子 | 日本産科婦人科学会専門医および指導医
母体保護法指定医師および母体保護法臨床指導医師 |
| 3) 鞠 錦 | 専攻医 |
| 4) 林 香里 | 専攻医 |

3. 日本産科婦人科学会専門医受験資格

- 1) 日本国の医師免許を有する者
- 2) 通算5年以上日本産科婦人科学会の会員である者（現在の会員の受験資格であり、スーパーローテーション制度導入後の入会時期は、卒後3年目で良いとされています。）
- 3) 日本産科婦人科学会指定の卒後研修指導施設で、卒後研修目標に沿って通算5年以上の臨床研修を行った者。ただし、スーパーローテーション制度導入以後の医師においては、スーパーローテーションの2年間を含める。

4. 日本産科婦人科学会が勧める卒後（5年間）研修達成目標

同学会発行の『産婦人科のための必修知識2009』という本を参考としてもらいたい。

5. プログラム

■ 後期研修の目標

産婦人科としての専門性を高め、一般的に遭遇する症例の対応、手術技量、インフォームドコンセントなどを修得すると共に、特殊な症例についての情報収集、判断能力を養う。また、患者さんに元気を与え、治療意欲を引き出せる活発な自己の生活力を養うこと。

■ 目標達成のための戦略の特徴

各種症例を経験し、チーム医療として多くのスタッフとの共同作業を通じて、真に患者のためになる医療を経験することにより、医師としてのやりがいのある仕事を達成し、将来の自分の理想像を作り上げてもらう。

■ 年度ごとの研修

経験年数を経る毎に、臨床実習学生、スーパーローテーション研修医を指導できる技量知識を習得し、また手術の執刀、初期診療時の判断、カンファレンスにおける意見が要求される。また、学会発表、論文発表の機会を持つ。

6. 大学医局との関連

滋賀医科大学産科婦人科の関連施設である。

7. 将来の進路

- 1) 全国で産婦人科医師が不足している現状では、当院で研修した実績が自信となり、どこでも通用する医師となるであろう。武田病院グループで勤務するか、各自の志を果たすために他で勤務するかは自分の判断で行うべきである。
- 2) 研究職を目指す方は、大学院進学を進める

8. 研修問い合わせ先

医仁会武田総合病院産婦人科 部長 山本嘉昭

あなたが医師を目指した理由は「高収入」あるいは「安定した生活」でしょうか？
当院で働く研修医たちは、「病気の人たちを救いたいから」皆、その思いで仕事をしています。人生はたった70～80年、もっと短いかもしれません。最後の日になって「あっ、しまった」と思う前に、人生の夢を追いかけましょう。「みんなの笑顔が見たいから」そんな目的を達成するには真剣に仕事に挑む勇氣が必要です。自分が誠心誠意尽くしている患者さんから叱られることはまずありません。文句を言われた時は、おおかた自分の都合で仕事をこなしている時です。産婦人科の仕事は、自分たちのチームが、直接人命を左右する仕事です。「やった、助かった。みんなありがとう。」そんな感動がいっぱいあるのです。これから癌で亡くられる方も、みんな自分ではなく家族の幸せを願っておられます。そんな人たちのために何かしたいと思ったら、我々のチームに入ってみませんか。